

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 53 号

令和7年3月22日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部

同窓会旭水会 内



ウエルビーイング

秋田市退職校長会 副会長 米澤喜彦

秋田市退職校長会および秋田市を含めた9郡市の退職校長会の連合体である秋田県退職校長会の副会長という立場を務めさせていただいている関係上、全国退職校長会（以下全連退）、東北地区退職校長会の総会に参加している。

表題のウエルビーイングは、昨年の全連退総会後の講演会で文部科学省総合政策局政策課の担当者からのお話の中で特に強調されていた言葉である。令和5年6月16日閣議決定された第4期教育振興基本計画のコンセプトは以下のとおりである。

〈持続可能な社会の創り手の育成〉

● 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる。

● 主体性、リーダーシップ、創造力、チームワークなどを備えた人材の育成。

〈日本社会に根差したウエルビーイングの向上〉

● 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウエルビーイングを向上。

● 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む。

（以上講演会資料より）

正直、元英語教師でありながら不謹慎ではあるが、「また横文字か、学校現場が混乱し、忙しくなるのでは」というのが、私の第一印象であった。しかし、遅ればせながらウエルビーイングという言葉に着目してみたところ、学校はもちろん、企業や各種団体が重視して取り組んでいることが分かってきた。

well-being 久し振りに辞書で確認したら、「安寧、幸福、福利」と出てくる。文字どおり解釈すれば「よいあり方」となる。少し関連する本を調べたところ、「よいあり方」から「持続的な幸せ」を意味するとあり、「よりよいあり方を通して幸せな状態である」という解釈もあるとのこと。

ちなみに、前述の講演会での資料によれば、

● 身体的・精神的、社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

● 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

この解釈を受けて何かストンと落ちたような気分になったのが、本退職校長会である。すなわち「ウエルビーイングな退職校長会をつくる」という発想が、今後さらに重要になってくるのではと、強く感じた次第である。

企業においては、人は幸せに生きて幸せに働くべきという考え方や、人は楽しくワクワクしながら次に何があるかと笑顔でいるときこそ幸せ、というような信念に沿って今後の企業経営に努めていこうとしている企業リーダーもあるようである。

また、子どもたちのウエルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校や社会全体のウエルビーイングを高めることが重要であるとも言われている。

本退職校長会においても、それこそ、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を肌で感じられる会でありたいと強く願うところである。

第28回秋田市現職・退職校長会

教育懇談会

日時…十一月八日(土) 14時
会場…協働大町ビル 6F 千秋の間

第28回の秋田市現職・退職校長会教育懇談会では、来賓祝辞の後にグループ協議が行われた。今年のテーマである、「学校現場の課題と取組」と「役職定年後の人生設計」について活発な意見交換が行われた。



グループ協議から

残り少ない教員生活と人生

河辺中学校
松田 清悦

出席すると返事はしたものの、大先輩であり、現在も要職をお務めになつていらつしやる退職校長先生方との懇談会と懇親会は、私にはとても敷居が高く、正直なところ心が重かった。ところが、冒頭の「人生を豊かにするための会である」というご挨拶に少し緊張感がほぐれました。さらに、「学校現場の課題と取組」「役職定年後の人生設計」と

いうテーマで行われたグループ協議では、現職校長先生方の過去の辛い思い出や反省点などを自己開示してお話くださったことで、一気に安心感へと変わりました。
特に参考になったのが、頑なな教員や若手教員への接し方についてでした。私自身、人間関係の構築がこれまで一番気を遣つてきたことでしたので、「特効薬はなく、一人にしない」で話し掛けやすく話し掛けられやすい雰囲気や「醸成すること」と「業務以外の話題で人間的な触れ合いをしたり、碎け過ぎず自然体で接したりすると良い」という心強いご助言に救われました。
人生百年時代と言われますが、認知症にはなりたくないし、介護も受けたくないので、健康とお金に苦しむことなく、七十五歳まで生きられたら幸いと考えております。次回は、これまで微塵も考えることもなかった退職金の資産運用について、とっておきの賢いお話を是非お聞きできることを楽しみにしております。

人と人とのつながりの中で

飯島小学校
小沼 登志美

学校では校長として日々の判断を求められ、毎日手探りで学校の運営が続く中、この会では豊富な実践経験をもつ先輩の校長先生方と対話することで、大きな安心感に包まれたひと時となりました。私が所属したグループは、退職・現職ともに3名ずつで、現職による学校経営上の課題の提起から懇談が始まりました。懇談は多岐に渡りましたが、共通して感じたのは「人とのつながり」の大切さです。先輩の校長先生方は、現職が抱える問題を我が事のように捉え、これまでの経験を通して得た貴重な助言を惜しみなく提供してくださいました。長年、教職に身を置き、同

じく校長という職責を負った立場によるこのつながりを、他では得られない大きな力として心強く感じました。中でも「困難に直面した時こそ教職生活を通じて培った誇りを持ち続け、それを生かして若手の育成に力を注ぐことも大事にしてきた」という金言は、現場を支えてきた信念として受け止め、校長を務める責任感を新たにさせるものとなりました。

先輩方の語ってくださった奥深い話は、退職後の人生設計にもおよび、「退職を新たなスタートに常に学び続け、新しい人とのつながりを作っていくこと」を生きがいにする姿勢や、「周囲に求められれば断らず、目的をもって人とつながり続けていること」で、趣味や地域活動でもより充実した生活が送れているという経験談は、公私に渡る新たな可能性の広がりを期待させてくれました。現役校長会のネットワークとはひと味違う、より大局的な考え方に触れられるこの会を通じて、生涯における「人とのつながり」の価値について新たな視点を見いださせていただきました。日々の忙しさに追われる中でも、私も将来、先輩たちのようにさりげなく生き方を示し、コミュニティの中で役立つような存在でありたいと小さな決意を抱く一日となりました。

教育懇談会に参加して



高橋 ゆり子

令和6年度秋田市現職・退職校長会教育懇談会に参加しました。この会は、現職の時には、先輩たちが、教育の信念をもって、現職を指導するちよびり怖くて、身の引き締まる場でした。

久しぶりに参加した会では、先輩方や現職校長先生方とお会いして、懐かしき言葉を交わしましたが、懇談会のグループ協議では、

現職校長先生方の日々の苦労や難儀な姿がしのばれるほど、多くの課題が出されました。中でも特別支援教育、職員不足の問題は、校長がなかなか校長室で、本来の業務に付けないほどと聞きました。普通教室で、何らかの発達障がい等でサポートを必要としている児童も多く、低学年の対象児は、校長室でお世話をし、高学年の心配なクラスには、教頭と手分けして授業に参加するとも聞きました。私が現職のころ以上に対象児が増え、それに伴ってサポートも増えてはいますが、追いついていないという厳しい現状が話されました。

職員不足では、講師希望者が減っていることで、病休者が一人出れば、学校が回らないほどで、管理職が補充に出るという話でした。これは、決して特別な例ではなくて、お話しされる多くの方たちから同じような嘆きが聞かれました。現状の課題に果敢に立ち向かっている現職の校長先生方の気持ちと頑張り、改めてエールを送りたいと思います。

退職組からは、私も含め、実に現実的なサジェスチョンがなされました。「歯を大切に」「退職金はすぐになくなるから、確保せよ」「退職後は必ずリフォームしたくなる」とまあ、教育とはどこへやら、ちっとも現役世代がビビらなようなお話の数々。他の班の格調高い、背筋が伸びるようなお話はできませんでした。でも、これが現実。若い仲間の頑張りとパワーをいただいて、保育園のリリー先生に戻ります。

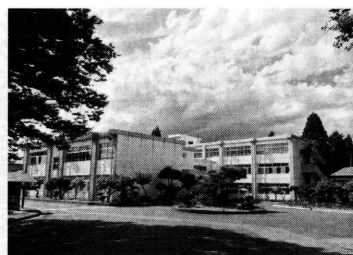
進む学校適正化

少子化の進展に伴い、学校の統合が進められています。令和七年四月には、太平小学校と下北手小学校が広面小学校と統合になります。今春の閉校に向けて、特色ある素晴らしい

取組がありましたので、紹介していただきました。



太平小学校
猿田 尚



令和六年七月七日で創立百五十周年を迎えた太平小学校。その大きな節目の年度に、太平地区で唯一となっていた学校が閉校します。地域と共にある学校として長年教育活動を行ってきた太平小学校は、最後の一年となった令和六年度も、地域と共にあることを最も大切に、子どもたちが太平地区で学んだことや楽しんだことを記憶として残せるよう、特色ある活動はできる限り全校で行いました。具体的には、全校稲作体験(田植え、稲刈り、脱穀、収穫感謝祭)や全校エダラ箕製作体験、全校まんたらめ宿泊研修、地域と合同の太平小学校区民大運動会、夏祭りなどが挙げられます。こ

れらの活動を通して、子どもたちは地域の人・もの・ことと十分に触れ合い、そこから学び取り、郷土のよさを感じ取ることができたと思います。

また、地域の方々にできるだけ太平小学校に足を運んでいただくために、学習発表会に招待したり、運動会の際に校内を開放したりしました。これまでに撮りため



た写真や展示物、掲示物等を見て、懐かしさを感じている方も多かったようです。各種大会の賞状や楯、トロフィー等を関係者に譲渡する呼びかけも地区の全戸に行い、譲渡期間には多くの方が訪れました。校内を一巡しながら、昔話に花を咲かせている様子を見ると、太平小学校には、それぞれの方の楽しい思い出がたくさん詰まっていることを改めて感じました。令和六年度の全校児童数は二十五名。そのうち卒業生を除く二十名は、令和七年度から広面小学校に通います。太平地区で育ち、太平地区で学んだことを誇りにし、子どもたち一人一人が自信をもって歩んでいくことを願っています。



下北手小学校
佐藤 渉

今年度、下北手小最後の校長として着任し、教育活動を展開する中で、学校、保護者、地域が一体となった温かい人間関係を基盤とした教育(報徳精神)が脈々と受け継がれていることを感じました。本校の今年度のスローガンは「思い出を胸に 未来へ進め 下北手」です。四月、六年生が中心となり、全校での思い出を作る一年にしたいという願いから「思い出プロジェクト」が始動しました。ふるさと先生との学習では、「さつまいも栽培・収穫祭」「縄ない体験」「生け花教室」、さらにPTAを中心に、「スベシヤル逃走中」「夏祭り」「ウインドウアート」など保護者・地域・学校が一つとなつて取り組んだ行事が楽しい思い出として刻まれました。子どもたちの成長を願



い、惜しみなく支えてくださった保護者や地域の皆様のおかげで、下北手でしか味わうことができない自然や文化に触れる多くの体験に恵まれ、充実した一年となりました。子どもたちは、このプロジェクトを通して、一人一人の心の中に、優しさや思いやりの心が芽生え、地域への愛着と誇りを育むことができました。そして、「報徳精神」、子どもたちを地域全体で育てていく温かい風土が子どもたちを大きく成長させた原動力となったことは言うまでもありません。下北手小学校の伝統（報徳精神）は、子どもたちの心の中で生き続けていくことと思います。

十一月の閉校記念式典では、下北手小の歴史と伝統、地域の皆様への感謝の思いを伝えることができました。また、これからの自分の未来についても自信を持って伝えることができ、思い出や誇りを糧として未来に向かう力を付けてきたことを実感できた式典となりました。これからこの下北手の地で育つ子どもたちの明けゆく未来に幸多きことを祈念しております。



創立150周年を迎えて

保戸野小学校の取り組みから

ここ数年、創立150周年を祝う小学校が多数ある。1872年に明治政府が学制を發布し、国民の全てが初等教育を受けることが定められた。これを受けて小学校の整備が始まり、開校された学校が創立150周年を迎えた。学校の事情により周年の考え方が異なり、前後する場合もある。また、新校舎設立や学校の統廃合等により変更される場合もある。



秋田市では、令和6年度に保戸野・牛島・川尻・旭川・土崎・日新・太平・浜田・四ツ小屋・下浜・金足西の11校が創立150周年を迎え、周年行事が行われた。各校では実行委員会を立ち上げ記念式典を始め、様々な記念行事が行われたと聞く。記念行事を行うための予算はどのように確保したのだろうか。保戸野小学校での取り組みを取

保戸野小学校の創立150周年記念事業実行委員会では、地域や地元企業、卒業生や関係者に呼びかけ、寄付型クラウドファンディングで資金調達を行った。その取り組みについて、伊藤栄二会長が京谷留理子校長からお話を伺った。

伊藤「今日はお忙しいところ、時間をいただきありがとうございます。公立学校でも今話題のクラウドファンディング（略称クラファン）を活用して寄付を集めることが、全国的に見られてきました。これまでの経緯を教えてください。」

京谷「資金調達をクラファンの活用で行うことは、

実際はPTAが核となった実行委員会が発案しました。秋田市の中心部にある保戸野小の児童

数は減少し続けています。しかし、小規模校になっても様々な経験を積んでほしいという願いがありました。その願いを応援していただいた皆様のおかげで実現できました。」



伊藤「クラファンはいろいろな形態があるようですね。寄付行為に對してリターン（返礼）がある」と理解しています。

京谷「実行委員会からのお話ですが、募集方式はA型で実施しました。目標金額を50万円とし、それに満たない場合でも計画を実行し、リターンをお届けするという方式です。支援金の使い道は、設備費や広報、宣伝費。また、リターンの仕入れ費や行事運営費です。そして、返礼の本身は金額によって、お礼状や記念パンフレット、パンフレットへの氏名掲載や式典招待などがありました。」

伊藤「成果はどうでしたか。」

京谷「たくさんの方々から寄付が集まり、いかに地域に支えられているか実感できました。また、地元を離れた卒業生や関係者からも応援いただけたのは、ネット社会の賜だと思います。かつて児童がたくさんいた時代に劣らない行事ができたことに感謝したいと思います。」

伊藤「いろいろ貴重なお話。ありがとうございます。保戸野小学校での思い出として刻まれたことと思います。」

交流のとびら



一通の茶封筒から

高橋 裕子

そろそろ手紙類の処理を、と思って引き出した箱の中に一通の茶封筒。地域の特別老人ホームに入園中のSさんからの礼状である。忘れもしない、あの一連の感動を。

事の始まりは、Sさんからの依頼。「〇〇園の朝」という歌を作ったが、まずい所を直してほしい、ということであった。

思いを込めて作られた曲を直すなんてとてもないと思いがちでも、クラスの子どもたちに入れたところ「僕たちが歌うのをテープにに入れて届けたら?」「じゃ、器楽伴奏をつけようよ」「みんなで行って歌ってあげたらどう?」等々。様々な意見が出た。

それは、ちょうど青少年赤十字に加盟して三年目、初めて担当して三年目のわたしにとつて、子どもたちの提案は嬉しかった。

双方の話し合いで日程も決まり、楽器類の運搬は保護者の方々がトラックで、と引き受けてくださり、練習にも熱が入り、さあ当日。

〇〇園に到着し沢山の笑顔に迎えられ、子どもたちの笑顔は緊張でぎこちなかった。それでも「〇〇園の朝」を精一杯歌って、万雷の拍手にホッペをまっ赤にして恥ずかしそうにしていた子どもたちの目は輝いていた。

その後は日頃歌っている歌や器楽曲をのびのびと演奏。ステージをおりてくる子どもたちの顔は、満足感が、誇らし気であった。帰り道での子どもたちのおしゃべり。「泣いていた人もいたよ」「ベッドでねていて拍

手してくれた人も」「窓からいつまでも手を振っていたよ」「また来てな〜って」「今までいろんな発表会に出たけど、涙を流して拍手してくれることは、あまりなかったよね」等々。目をうるませながら、うなずき合つて。その後地域で毎朝「〇〇園の朝」が聞こえてきたとのこと。バス停を掃除して花を飾ったり、一人暮らしのお年寄りを訪ねて話し相手になったりと、子どもたちの活動の様子が手紙や電話で寄せられるようになった。



生きるためのルーティン

藤本 康子

チェロの心地よい低音が家中に響いている。廊下の床を拭きながら、ふと、退職して二十年が経つことに思いを馳せる。

退職直前、膝を痛めた。体重も増え、このままでは健康な老後は望めないと考え、大の運動嫌いが一念発起して「六十からの楽々ヨーガ」というキャッチフレーズに引かれヨーガ教室に通い始めた。目を閉じて周囲と比較することなく体を動かせるせいか今も続けることができています。家事も苦手なことのひとつだが、畑を耕し野菜を育てたり、雑草対策等も退職後始めたりしたのが難儀なことだ。毎年時期になると体が動くのが不思議なことだ。意気込んで再開したフルート練習もある。当時学生みたいにならなかつたフルートの先生

は、今、三児の母となった。家事をはじめ日々続けていることは、次第に練られ簡略化、スリム化されて生活のリズムとなり、ルーティンとなってくる。

子供の頃から暇があれば本を読んで暮らしてきた本の虫だが、近頃目が疲れるようになってきた。それでも相変わらず推理小説好きは変わらない。毎年数十冊は積まれていく。マイル・コナリーの描くロス市警の刑事ボッシュ、スウェーデンの作家ヘニング・マイケルの刑事ヴァランダー等、身近に感じられる人物は数多い。自分ではできない事件解決というスリル、知らない土地を想像し旅する気分を味わうことは、変哲のない生活に刺激となる。

音楽からも潤いをもらっている。息が上がる程美しい旋律に出会う時、音の奔流に身を任せる時、幸福感に浸ることが出来る。日常のルーティンの中に色彩を与え、少し心豊かになった気分を味わうことができる。

これから老いて行く中で、今普通にこなしている事柄がどこでどのように欠落していくかが課題で、それが私の「老い」である。生きるルーティンを細々と続けて、老いることをできるだけ先延ばししている毎日である。



働き方改革のゆくえ

濱田 眞

教職員未配置が全国で五千件に迫り「公教育の穴」は今後ますます拡大する勢いである。この穴をふさぐために、文科省と財務省は教員調整手当の増額で対応しようとしている。しかし、両者とも出発点が間違っているように見える。

小生が関わっている「平成教育の検証（略称）」の共同研究者は日米教育を比較して次

のように述べる。米国における学校教育の役割は学習指導に特化しており、生徒指導には教員以外の「学生支援チーム」が対応、部活動は学校外の活動とされ、教員が担当する場合は報酬が支払われる。日本は生徒指導、部活指導をはじめ、福祉的な役割も果たす。そして、その役割は際限なく拡大している。にもかかわらず約二〇年前、時の首相は「子どもの数が減っている。それ以上に教員の数を減らさなければならぬ」と述べ人件費を抑制、教員給与の国庫負担率を減額した。結果として非正規教員への依存度が高まった。さらに近年は指導内容が増加。英語、道德の教科化、プログラミング等が加わり、仕事量は学校週六日制の時よりも増えている。JACの調査の結果、日本教員の労働時間は突出しているにもかかわらず給与は平均を下回る。日本通の研究者は次のように言う「日本の教育予算はOECDの最下位クラス、学力は最上位クラス、コスパが高いです」半分皮肉である。日本の新自由主義的教育政策は世界から注目されている。

しかし、この局面において事態は暗転した。教員採用試験の倍率は急速に低下し定数を確保できない学校が続出、校長には働き方改革が求められ時には欠員補充にかけまわる。教員予備軍は次のように言う「教員になっても結婚して子育てしていく自信がありません」。学校現場は若者から見放されつつあるのだ。世界有数の経済大国にもかかわらず「教育予算がない」との言い訳はもはや通用しない。次世代の育成に失敗した国に未来はない。小生が試算したところ、公教育の崩壊を防ぐには教員定数を抜本的に見直すか、学校の役割を国際標準に近いところまで減らさなければならぬ。さもなければ、学校教育もろとも学校依存社会日本も崩壊するであらう。

新入会員紹介



恭敬謹慎

谷村 格

諸先輩の皆様のお陰で、どうにかこうにか教職の道を無事に辿ることができました。これまでのご指導ご鞭撻に心から感謝申し上げます。御縁あつて貴会に入会する運びとなりました。引き続きご厚誼のほどよろしくお願いいたします。

少子高齢化や年金制度の維持、労働力の確保といった社会情勢により、今年度から第二の人生を送っています。健康寿命を延ばし、少しは年金に充てるよう働けるうちは、社会に関わっていききたいと思ひます。恭敬謹慎

自分のできる地域貢献

長沼 優

入会にあたり、同期や諸先輩から勧誘していただき感謝申し上げます。一年遅れですが、無事に仲間入りでき安心しています。

退職後は、県市とも陸上競技協会の会長として県内外を奔走しています。また本年度四月からは、秋田市教委学校教育課に所属し、部活動地域移行総括コーディネーターを務めています。いずれの役割も「自分のできる地域貢献」として捉えており、指導主事の精鋭達と一緒に職場で毎日进行しています。会員の皆様との情報交換の機会が楽しみです。どうぞよろしくお願ひします。



パリ五輪6位入賞
鈴木優花選手と

事務局から

○令和7年度 年間行事予定

・秋田市退職校長会

監査	令和7年4月17日(木)
理事会	4月26日(土)
総会	4月26日(土)
現職・退職校長会教育懇談会	11月15日(土)

祝叙勲

(敬称略)

・瑞宝双光章 (高齢者叙勲)

秋元 英一

秋田市千秋北の丸

小川 博

秋田市植山

謹んでお悔やみ申し上げます

令和6年3月10日現在 (敬称略)

・斎藤 静夫	令和6年3月29日	ご逝去
・村上 弘	令和6年11月	ご逝去
・齊藤 俊雄	令和6年12月25日	ご逝去
・田村 幹郎	令和7年1月5日	ご逝去
・瓜生 俊子	令和7年1月14日	ご逝去
・松田 行正	令和7年3月3日	ご逝去

「楽しい研修会」のご案内

来年度も楽しい研修会をご案内しますので、多数のご参加をお待ちしております。